

「支援機関等調査」結果報告について (概要)

I 調査概要			
1. 調査目的 子どもや家庭の抱える課題が複合的であることから、就学前から高校生年齢の子どもに関わる支援機関等への調査を行い、子どもの貧困に関する課題の背景や支援が困難な事例、子どもや家庭のニーズを把握することにより、支援者間の連携方策や支援の必要な子どもや家庭を支援施策につなぐ仕組みの検証を行う。	4. 対象機関及び回答数	回答数計 445件	
	<内 訳>		
	保育所・幼稚園・認定こども園(公立・民間)	148件	OSAKA しごとフィールド 2件
	小学校	37件	子ども・若者自立支援センター 4件
	中学校	27件	母子・父子自立支援員 21件
	府立高校	13件	生活保護相談 16件
	支援学校	8件	生活困窮者自立支援相談 15件
2. 調査方法 大阪府子どもの生活に関する実態調査(支援機関等調査)については、31市町村の協力の下、対象機関に対して府又は市町村経由により電子メールにて調査票を送付し、回収を得たもの。	保健センター	26件	子ども家庭センター 6件
	スクールカウンセラー(SC)	8件	家庭児童相談室 22件
	スクールソーシャルワーカー(SSW)	3件	コミュニティソーシャルワーカー(CSW) 19件
	市町村教育センター	8件	民生委員・児童委員 20件
	適応指導教室	8件	地域コミュニティ・NPO 法人等 25件
3. 調査期間 平成28年9月14日から同年12月19日まで	学校支援地域本部又はおおさか元気広場での学習支援実施団体	7件	女性相談センター 1件
	若者サポートステーション	1件	

II 各機関の概要		
保育所・幼稚園・認定こども園(公立・民間)<P135>	小学校<P136>	中学校<P137>
<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談や会話、登園状況の把握、子どもや保護者の様子の観察、関係機関からの報告を通して、支援の必要な家庭を発見(P45表 2-3-1) ⇒9割が保護者の相談支援を実施(P4図 2-1-2) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が家庭訪問や日常の会話を積み重ねて信頼関係を構築(P45表 2-3-1) ・信頼関係構築上の課題として、「支援を拒否される」は2割程度(P109図 2-7-1) ・支援がうまくいかなかった事例の原因は、対象者との関係構築が困難が多い(P64表 2-4-1) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所等の多くが行政関係機関とのケース会議の開催などにより連携(P45表 2-3-1)。 ・他機関との連携の課題として、連携の日程調整が困難、関係機関の情報共有・支援方針の共有・役割分担が不十分、個人情報取り扱いが難しい(P96表 2-6-1) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「支援者自身の知識や経験」が3割強(P28図 2-2-1) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・保護者からの相談や、登校状況、子どもや保護者の様子の観察、学校で行なっている生活アンケートへの回答などを通して、支援の必要な家庭を発見(P48表 2-3-2)⇒5割が保護者の相談支援を実施(P4図 2-1-2) ・支援の工夫点は相談員の配置、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用などの相談体制構築(P7表 2-1-2) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーなどと連携して信頼関係を構築(P48表 2-3-2) ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は5割近い(P109図 2-7-1) ・支援がうまくいかなかった事例の原因は、対象者との関係構築が困難が多い(P65表 2-4-2) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の多くが行政関係機関と連携し支援を実施。連携した関係機関と定期的な連絡会もある(P48表 2-3-2)。 ・他機関との連携の課題として、「関係機関等との連携が困難」などを挙げる小学校は2割程度(P109図 2-7-1) ・他機関との連携における課題として、連携する日程の調整が困難、関係機関の情報共有・支援方針の共有・役割分担が不十分、個人情報取り扱いが難しいなど(P97表 2-6-2) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「マンパワー」が多い。(P28図 2-2-1) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・保護者からの相談、登校状況や諸費用の滞納状況、子どもの問題行動などから、支援の必要な家庭を発見(P49表 2-3-3) ⇒5割が保護者の相談支援を実施(P4図 2-1-2) ・支援の工夫点として、子どもへのアンケートや、子どもの変化に気付くスキルを高める研修の実施(P8表 2-1-3) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は4割と多い(P109図 2-7-1) ・支援がうまくいかなかった事例の原因は、支援・つながりを拒否される、保護者と問題意識を共有できないなどが多い(P65表 2-4-3) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の多くが行政関係機関と連携し支援を実施。連携した関係機関と定期的な連絡会もある(P49表 2-3-3) ・ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」などを挙げる中学校は2割程度(P109図 2-7-1) ・他機関との連携における課題として、連携する日程の調整が困難、関係機関の情報共有等が不十分、それぞれの立場や支援方針の違いの理解が不十分など(P98表 2-6-3) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「マンパワー」が多い。(P28図 2-2-1)

(注)機関内での情報共有の項目については、情報共有に不足は感じていないという傾向の場合、記載を省略。

府立高校 <P138>	支援学校 <P138>	保健センター <P139>
<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども・保護者・親族からの相談、登校状況などを通して支援の必要な家庭を発見(P50表2-3-4)⇒4割程度が保護者の相談支援を実施(P4図2-1-2) ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」「支援の対象がわからない」は4割弱。支援の必要な家庭の発見を課題と感じるところは多い(P109図2-7-1) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> SSWと連携し対象者との信頼関係を構築(P50表2-3-4) ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は5割と多い(P109図2-7-1) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 府立高校の多くが行政関係機関とのケース会議等の開催により連携(P50表2-3-4) ケースに対応する中での課題として、「発見後のつなぎ先がわからない」等が5割強と多い(P109図2-7-1) 地理的制約がある、個人情報の取り扱いが難しい、連携先がわからないなどが連携における課題(P99表2-6-4)。 <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援の不足点として、「マンパワー」は小・中学校に比べ低い、「支援者自身の知識や経験」や「公的な協力・支援の仕組みや制度」に不足を感じている割合が比較的高い(P28図2-2-1) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者からの相談、登校状況、関係機関からの報告・申し送り、また子どもの様子の観察から、支援の必要な家庭を発見(P51表2-3-5)⇒5割が保護者の相談支援を実施(P4図2-1-2) ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」「支援の対象がわからない」は5割程度。支援の必要な家庭の発見を課題と感じるところは多い(P109図2-7-1) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当が子どもの今後の経過を予想し保護者に示したり、各機関が同じ方針を保護者に示したりすることが保護者との信頼関係構築につながっている(P51表2-3-5) ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は7割強と多い(P109図2-7-1) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援学校の多くが行政関係機関とケース会議等を開催して連携(P51表2-3-5) ケースに対応する中での課題として、「発見後のつなぎ先がわからない」等が7割強と多い(P109図2-7-1) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援の不足点として、「公的な協力・支援の仕組みや制度」に不足を感じている割合が教育機関の中で最も高い(P28図2-2-1) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者からの相談や、妊娠届提出のために対象者が来所した時、また医療機関からの報告により、支援の必要な家庭を発見(P52表2-3-6)⇒すべての保健センターが保護者の相談支援を実施(P12図2-1-4) 支援の工夫点として、妊娠届提出時にすべての妊婦に面接・相談の実施、乳幼児健診ですべての子どもの発達・疾患の確認および子育て相談の実施など、支援の必要な家庭を確実に発見する体制を構築。またリスクアセスメントシートで対象者を客観的に評価(P16表2-1-6) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者が他機関に行く際に保健師が同伴するなどして信頼関係を構築(P52表2-3-6) ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は6割近く(P115図2-7-2) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政関係機関、また医療機関、保育所などと連携し支援。関係機関と定期的な連絡会もある(P52表2-3-6) 他機関連携における課題として、それぞれの立場や支援方針の違いの理解が不十分、関係機関の情報共有・支援方針の共有・役割分担が不十分、個人情報の取り扱いが難しいなど(P100表2-6-6) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援の不足点として、「マンパワー」が5割と多い(P33図2-2-2) 支援がうまくいかなかった事例として、対象者が経済的支援を受けられる条件に該当しない、合致したサービスがないなども多い(P67表2-4-6)
スクールカウンセラー（小中学校） <P140>	スクールソーシャルワーカー（小中学校） <P141>	市町村教育センター <P142>
<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども・保護者からの相談、子どもの登校状況、教職員からの報告などにより、支援の必要な家庭を発見(P53表2-3-7)⇒9割が保護者の相談支援を実施(P12図2-1-4) ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」「支援の対象がわからない」が4割弱と多い(P115図2-7-2) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的に相談に乗る等対象者と信頼関係を構築(P53表2-3-7) ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は7割強と多い(P115図2-7-2) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 成功のポイントとして、行政関係機関、また学校などとケース会議を開催するなどして連携し支援を実施(P53表2-3-7) ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」などは4割で他の機関と比較すると多い(P115図2-7-2) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援の不足点として、「マンパワー」が2割(P33図2-2-2) <p>◆機関内での情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援の不足点として、「責任者あるいは同僚と相談する機会」が4割弱と、他の機関と比較すると多い(P33図2-2-2)。中には、月1回1時間しか相談時間がとれないというスクールカウンセラーもいる(P37表2-2-7) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校からの情報提供で支援の必要な家庭を発見。学校からの情報提供を強化するために教職員研修を実施したり、教育委員会がSSW派遣依頼を学校から受ける仕組み構築(P54表2-3-8) ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」「支援の対象がわからない」は3割強と高い(P115図2-7-2) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は7割近い(P115図2-7-2) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政関係機関や学校とケース会議を開催するなどして連携し支援(P54表2-3-8) ケースに対応する中での課題として、「個人情報の共有が困難」は7割近い(P115図2-7-2) そのほか、対象者が抱える課題の共有が不十分、連携の目的が不明確、他機関連絡会への参加が業務として認められていないなど(P101表2-6-8) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> SSWの勤務回数が少ないことを指摘 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村教育センターの9割が保護者の相談支援を実施(P12図2-1-4) 「発見の仕組みがない」「支援の対象がわからない」は皆無 <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援がうまくいかなかった事例の原因として、支援・つながりを拒否された、保護者とコンタクトがとれなかったことを挙げているところもあり、対象者との関係構築に困難なケースもある(P68表2-4-9) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や行政関係機関などと連携し支援(P54表2-3-9) 他機関との連携における課題として、連携の日程を調整することが困難、対象者が抱える課題の共有が不十分となった(P101表2-6-9) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援の不足点として、「マンパワー」が5割(P33図2-2-2)

適応指導教室 <P143>	学校支援地域本部又はおおさか元気広場での学習支援実施団体 <P143>	若者サポートステーション <P144>
<p>◆支援の必要な家庭の発見 ・学校などからの紹介で見ていると推測(P55表2-3-10)</p> <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築 ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、保護者とコンタクトがとれなかった、支援・つながりを拒否された、保護者と問題意識を共有できなかったなど(P68表2-4-10)</p> <p>◆関係機関との連携 ・学校やSC、SSWなどと連携し支援(P55表2-3-10) ・他機関との連携における課題として、連携の日程を調整することが困難、対象者が抱える課題の共有が不十分と回答(P102表2-6-10)</p> <p>◆その他 ・支援の不足点として、「マンパワー」の不足は2割と少ないが(P33図2-2-2)不足理由にボランティアの確保が困難との回答がみられる(P38表2-2-10)。</p> <p>◆機関内での情報共有 ・支援の不足点として、「責任者あるいは同僚と相談する機会」は2割強であり(P33図2-2-2)、その不足の理由には、非常勤のスタッフが全員揃うのが月1回のみという厳しい状況もある(P38表2-2-10)</p>	<p>◆支援の必要な家庭の発見 ・ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」「支援の対象がわからない」は2割弱(P115図2-7-2) ・支援の不足の理由として、支援が必要と思われる子どもが来ないという回答あり(P39表2-2-11)</p> <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築 ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は2割弱(P115図2-7-2)</p> <p>◆関係機関との連携 ・成功事例については、行政機関などと連携し支援(P55表2-3-11) ・他機関との連携における課題として、関係機関の情報共有・支援方針の共有・役割分担が不十分という回答が1件だけあり、他機関との連携に関してはあまり課題を感じていない(P102表2-6-11)。</p> <p>◆その他 ・支援の不足点として、「公的な協力・支援の仕組みや制度」との回答がみられる(P33図2-2-2)</p>	<p>◆支援の必要な家庭の発見 ・保護者からの相談により、支援の必要な家庭を発見(P56表2-3-12)</p> <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築 ・対象者と継続的に関わりを持ち、対象者と信頼関係を構築(P56表2-3-12)</p> <p>◆関係機関との連携 ・関係機関とケース会議を開催して連携し支援(P56表2-3-12) ・ケースに対応する中での課題として、「発見後のつなぎ先がわからない」を挙げている(P116図2-7-3)</p> <p>◆その他 ・支援の不足点として、「公的な協力・支援の仕組みや制度」との回答がみられ(P34図2-2-3)、その不足理由に支援制度の条件に合わない人がいるとある(P39表2-2-12)</p>
OSAKA しごとフィールド <P145>	子ども・若者自立支援センター <P146>	母子・父子自立支援員 <P146>
<p>◆関係機関との連携 ・支援の工夫点として、「関係機関へのつなぎ」を挙げている(P13図2-1-5)</p> <p>◆その他 ・支援の不足点として、「マンパワー」と「支援者自身の知識や経験」(P34図2-2-3)</p>	<p>◆支援の必要な家庭の発見 ・保護者からの相談により支援の必要な家庭を発見(P56表2-3-14) ・ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」「支援の対象がわからない」は3割弱(P116図2-7-3)</p> <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築 ・成功事例については、対象者の相談に何度も乗ることで、信頼関係を構築(P56表2-3-14) ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は3割弱(P116図2-7-3)</p> <p>◆関係機関との連携 ・成功事例において関係機関と連携が5割(P56表2-3-14) ・ケースに対応する中での課題として、「発見後のつなぎ先がわからない」が5割(P116図2-7-3)、 ・他機関との連携における課題として、個人情報の取り扱いが難しい、それぞれの立場や支援方針の違いの理解が不十分と回答(P103表2-6-14)</p> <p>◆その他 ・支援の不足点として、「公的な協力・支援の仕組みや制度」との回答が多い(P34図2-2-3)</p>	<p>◆支援の必要な家庭の発見 ・保護者からの相談や他の自治体からの報告により、支援の必要な家庭を発見している(P57表2-3-15) ・ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」「支援の対象がわからない」は2割程度(P116図2-7-3)</p> <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築 ・対象者への寄り添い型支援や、他機関と共に保護者への相談支援により信頼を構築(P57表2-3-15) ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は2割程度(P116図2-7-3) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、支援・つながりの拒否、対象者への寄り添い型支援ができない場合がある(P70表2-4-15)</p> <p>◆関係機関との連携 ・行政関係機関、医療機関などと連携して支援(P57表2-3-15) ・ケースに対応する中での課題として、「発見後のつなぎ先がわからない」「関係機関等との連携が困難」などが2割(P116図2-7-3) ・他機関との連携における課題として、情報共有に時間がかかる、個人情報の取り扱いが難しい、機関内の情報共有・支援方針の共有が不十分などとなった(P103表2-6-15)</p> <p>◆その他 ・支援の不足点として、「支援者自身の知識や経験」が最も多い(P34図2-2-3)</p> <p>◆機関内での情報共有に関する実態と課題 ・支援の不足点として、「責任者あるいは同僚と相談する機会」は2割弱(P34図2-2-3)</p>

生活保護相談 <P147>	生活困窮者自立支援相談 <P148>	子ども家庭センター <P149>
<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」は 3 割 (P117 図 2-7-4) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功のポイントとして、生活保護相談は対象者に支援方法を丁寧に説明するなどにより信頼関係を構築 (P57 表 2-3-16) ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は 5 割 (P117 図 2-7-4) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、保護者と問題意識を共有できなかったり、対象者とコンタクトがとれなかったり、支援を拒否されたりすること回答 (P70 表 2-4-16) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功のポイントとして、多くの生活保護相談が行政関係機関と連携して支援 (P57表2-3-16) ・ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」は2割 (P117図2-7-4) ・他機関との連携における課題として、情報共有に時間がかかる、それぞれの立場や支援方針の違いの理解が不十分など (P104表2-6-16) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「マンパワー」は 3 割とそれほど多くないが (P35 図 2-2-4)、不足の理由のすべてがケースワーカーの不足 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功のポイントとして、保護者からの相談や、関係機関、生活保護担当者からの紹介によって支援の必要な家庭を発見 (P58 表 2-3-17) ・ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」は 5 割近い (P117 図 2-7-4) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者にきめ細かく対応することや、初回相談時に対象者への弁護士から助言を通して、対象者との信頼関係を構築 (P58 表 2-3-17) ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は 3 割 (P117 図 2-7-4) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、対象者の信頼関係構築と回答 (P70 表 2-4-17) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の工夫点として、6割近くが「関係機関へのつなぎ」と回答 (P14 図 2-1-6) ・ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」などは 2 割 (P117 図 2-7-4) ・他機関との連携における課題として、日程調整が困難など (P104 表 2-6-17) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「公的な協力・支援の仕組みや制度」は比較的多い (P35 図 2-2-4) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての相談を対象に保護の必要性についての初期アセスメントを実施 (P23表2-1-18) ・ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」は3割強 (P117図2-7-4) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者と関わりを積み重ねることにより信頼関係を構築 (P59 表 2-3-18) ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は 8 割超 (P117 図 2-7-4) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、支援・つながりの拒否や、保護者と問題意識の共有が困難な場合と回答 (P71 表 2-4-18) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功のポイントとして、行政関係機関などと連携 (P59表2-3-18) ・他機関との連携における課題として、関係機関の情報共有・役割分担が不十分など (P105 表 2-6-18) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「マンパワー」が 8 割超 (P35 図 2-2-4)あり、不足の理由として、業務量の増加、虐待通告件数の激増など (P42 表 2-2-18)
家庭児童相談室 <P150>	コミュニティソーシャルワーカー <P150>	民生委員・児童委員 <P151>
<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待通告や定期的な連絡会のある機関からの報告により、支援の必要な家庭を発見 (P59表2-3-19)⇒9割近くが保護者の相談支援を実施 (P14 図2-1-6) ・支援の工夫点として、子育て出張相談や、メール相談、子ども専用のフリーダイヤルの設置など、対象者が相談しやすい環境を工夫 (P23表 2-1-19) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功のポイントとして、適宜ふさわしい機関に対象者の相談対応を担ってもらいながら、対象者との関係を構築 (P59 表 2-3-19) ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は 6 割近い (P117 図 2-7-4) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、支援・つながりを拒否されたり、対象者に寄り添うことができなかつたりするなど (P71 表 2-4-19) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政関係機関、学校などとケース会議で連携するなどして支援 (P59表 2-3-19) ・ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」などは2割程度 (P117図2-7-4) ・他機関との連携における課題として、情報共有に時間がかかるなど (P105表2-6-19) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「マンパワー」が 6 割 (P35 図 2-2-4) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者やその家族からの相談、また SSW や学校からの情報提供、また地域からの報告などにより、支援の必要な家庭を発見 (P60表 2-3-20)⇒4割程度が保護者の相談支援を実施 (P15 図 2-1-7) ・支援の工夫点として、子育てサロンや子ども食堂に参加し、対象者から相談してもらえるよう関係を築く (P24 表 2-1-20) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の気持ちが動きやすいタイミングを見計らってアプローチするなどして、対象者との関係を構築 (P60 表 2-3-20) ・ケースに対応する中での課題として、「支援を拒否される」は 5 割超 (P118 図 2-7-5) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、支援・つながりの拒否や、保護者と問題意識を共有できないなど (P71 表 2-4-20) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政関係機関と連携して支援 (P60表2-3-20) ・支援の工夫点として、8割超が「関係機関へのつなぎ」 (P15図2-1-7) ・ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」などは 3 割あり、また「個人情報の共有が困難」は 6 割と多い (P118 図 2-7-5) ・他機関との連携における課題として、個人情報の共有が困難であることその他、それぞれの立場や支援方針の違いの理解が不十分であるなど (P106 表 2-6-20) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「支援者自身の知識や経験」が最も多い (P36図 2-2-5)。その不足の理由は、勤務形態により知識・経験が蓄積されない、子どもの分野が専門ではないなど (P42表2-2-20) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの報告、保護者からの相談、子どもの様子などから、支援の必要な家庭を発見 (P61表2-3-21)⇒4割が保護者からの相談を実施 (P15図2-1-7) ・支援の工夫点として、子育てサロン等での相談支援 (P25表2-1-21) ・ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」などは 3 割 (P118 図 2-7-5) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と直接話をしたり、時には子どもと密にコミュニケーションをとったりしながら、対象者との関係を構築 (P61 表 2-3-21) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、保護者と問題意識を共有できなかったなどがある (P72 表 2-4-21) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携は他と比較して少ないが、行政関係機関や学校、社会福祉協議会と連携して支援 (P61表2-3-21) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、関係機関との連携に関することを挙げる民生委員・児童委員は少ない (P72表2-4-21) ・ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」などは2割弱 (P118図2-7-5) ・他機関との連携における課題として、個人情報の取り扱いが難しいなど (P106表2-6-21) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「支援者自身の知識や経験」が最も多い (P36 図 2-2-5)

地域コミュニティ・NPO 法人等<P152>	女性相談センター<P153>
<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・子どもからの相談、関係機関からの紹介により支援の必要な家庭を発見(P62表2-3-22)⇒7割が保護者の相談支援を実施(P15図2-1-7) ・ケースに対応する中での課題として、「発見の仕組みがない」は4割(P118図2-7-5) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も対象者の相談に乗るなどしながら、対象者との関係を構築(P62表2-3-22) ・支援がうまくいかなかった事例の原因として、家庭事情に踏み込めない、支援・つながりを拒否されるなど(P72表2-4-22) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の連携は他と比べて少ないが、行政関係機関や学校などと連携して支援にあたっている場合もある(P62表2-3-22) ・ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」などは3割程度(P118図2-7-5) ・他機関との連携における課題として、個人情報の取り扱いが難しいなど(P107表2-6-22) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「公的な協力・支援の仕組みや制度」(P36図2-2-5) 	<p>◆支援の必要な家庭の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談や警察からの報告により、支援の必要な家庭を発見(P63表2-3-23) <p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の居住地のDV担当者と女性相談センターが同席する面接を速やかに設定することにより、対象者と信頼関係を構築(P63表2-3-23) <p>◆関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の居住地のDV担当者や警察署と連携し支援(P63表2-3-23) ・ケースに対応する中での課題として、「関係機関等との連携が困難」と回答(P118図2-7-5) ・他機関との連携における課題として、ケースのコーディネーターが不明確と回答(P107表2-6-23) <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の不足点として、「公的な協力・支援の仕組みや制度」とあり(P36図2-2-5)、その不足理由は、支援を実施するにあたり関係機関との役割分担が難しいなど(P44表2-2-23)

IV 総合考察<P159>		
<p>回答のあった28機関(445事例)については、①保健センターや学校、保育所、幼稚園など、子育て世帯が初めに会う機関(第1ステージ)、②そこから紹介される子ども家庭センターや生活保護相談、家庭児童相談室などの機関(第2ステージ)、③本人等からの申請が基本の適応指導教室や市町村教育センターなどの機関(第3ステージ)の3つに分けられ、今後、この3ステージも意識した検討が必要</p>		
<p>◆支援の必要な家庭の発見(P159)</p> <p>発見とは、問題を見つけるという認識ではなく、見えない、声にならないSOSを発見する視点。貧困問題には、この視点が重要。</p> <p>特に第1ステージの機関において、うまく拾いあげることができないと必要な人や家族にサービスや支援を届けられない。</p>	<p>◆支援者と対象者の信頼関係の構築(P160)</p> <p>課題意識として「支援を拒否される」を挙げている機関は、第1ステージの機関が多い。こうした機関では、介入困難事例に関するノウハウの蓄積が必要。</p> <p>第2ステージの機関で「支援を拒否される」を挙げている最も厳しい機関は、子ども家庭センター(児童相談所)の8割。</p>	<p>◆関係機関との連携(161、162)</p> <p>共通してすべて機関において関係機関との連携の必要性を感じており、関係機関へのつながりがポイントと考えている。</p> <p>連絡会があることによって、つながりがよくなり、事例に効果をもたらしていることが明らかになった。</p>
<p>⇒今後の方策としては、発見のための具体的方法と仕組みの提案や研修の実施が考えられる。</p>	<p>⇒今後の方策としては、介入困難事例への介入方法を、研修のみならず、ステージごとにまとめることで対応力を高めることなど。</p>	<p>⇒保護者・子どもへの調査からも、支援を必要とする世帯が支援につながっていないことが明らかになった。早急につなぐ仕組みづくりが必要。</p>